



学校だより

# たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 2年 9月25日

## 「がんばる」ということ

校長 菅原 透



2学期がスタートして1か月。コロナ禍の中で、子どもの笑顔を求めて営みをすすめています。お盆やGO TOで危惧される感染拡大が最小限に抑えられている山形県。感染しない・広めないという高い意識とそれを忠実に守る実直な県民性のおかげです。気を緩めることなく、この調子で新たな日常を創り続けます。

さて、今月末の長距離走大会に向けて、体育や3分間走に一生懸命取り組んでいる子ども達。長距離走は苦しいものです。勢いよくスタートしても、グラウンドを1周走れば苦しさがワッとやってきます。いかに持ちこたえるかが鍵…。かつては高学年が2000M走りましたが、現在は男子1000M女子800M（低学年600M）に挑戦しています。得意な子は風を切って颯爽と走りますが、苦手な子は走りも表情も苦しそうです…。

私が担任をしていた時のこと。いつも最後尾でゴールする子どもがいました。走るのは当然苦手で、どうせ速くないし、勝てないし…との気持ちも伝わりました。そこで、初めの記録をいかに縮められるかに意識を持たせたら、これがはまったのです。伸びしろは一番期待できるので短縮幅がすごい！スピードは決して速くはありませんが、足取りはしっかりとし、前を見据える眼差しも鋭くなりました。最終的に40秒も短縮。順位は変わらずとも、やり切った表情、満足そうな表情は今でも忘れることができません。

もしかしたら、いくらがんばっても他

の人と比べているうちは満足感を得ることができないのではと思ったりします。大切なのは今の自分を見つめ伸ばすこと。自らの目標に向かい、達成すること。少しずつステップアップし、喜びを味わい、意欲を喚起し、自信を育む。苦しい場面も何度かのチャレンジで乗り越えれば必ず一皮むける。きっとそこに、もっと力をつけた、もっと前向きな自分が生まれます。今、休み時間、自主的に走る子がいます。遊べるのに自分から走っているのです。私を見つけると「校長先生！」と笑顔で手を振ってくれます。それも走っている皆が同じようにです。自主的にがんばっているうちに、走るだけでなく、他の大切な何かも見い出したように感じるの、私だけでしょうか。

苦しい時の頼りは自身の努力と精神力。さらにそれを支えるのは、周りの温かく力強いサポート。体育の時間に聞こえる応援の声は実に清々しい。励ます友の後押しは最大のエネルギーであり、最強の応援団となるでしょう。懸命に走る、時には歯を食いしばって…。懸命に応援する、自分のことのように…。だから伸びる。自分ががんばったから、自分達でがんばったから。

今回の長距離走大会は貴重な成長の機会です。楽しみにしています。

